



# MORIOKA YMCA NEWS

## 盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、子ども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. 子どもたちの個性を大切にし、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

## 2016年4月号 また会える日まで！



発行人：濱塚有史 編集人：君塚彩 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1  
TEL 019 (623) 1575 e-mail: morioka@ymcajapan.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>



## 「卒業」

小野寺百恵（盛岡大学4年 つぶ貝リーダー）



盛岡大学を卒業したつぶ貝こと小野寺百恵です。4年間、盛岡YMCAのリーダーとして活動させていただきました。この文章を書くにあたり、はじめに伝えたいことは、私は盛岡YMCAが大好きということです。盛岡YMCAは、真っ直ぐだからこそ少し不器用で、だけど誰よりも人に厚い人たちが集まった素敵な場所だと思います。その情熱で私を受け入れ向き合ってくれた盛岡YMCAと仲間たちに感謝しています。

私が盛岡YMCAの活動が夢中になれたわけは、一緒に活動してくれたスタッフさんやリーダーがいたからです。この人たちがいたから、私は盛岡YMCAで大切なことをたくさん知ることができました。楽しいこともたくさんあり、一方で苦い思い出もたくさんあります。それはきっとキャンプやスクールに来た子どもたちも一緒だと、活動の中で感じました。子どもたちが友達といろんなことを経験するたびにさまざまな表情をみせてくれる姿は、私たちリーダーの姿とよく重なります。子どもたちも彼らの関係の中でたくさんもがいて、葛藤しているのだなと感じたと

き、私も相手とそして自分と向き合おうと思えました。また、子どもから学ばせてもらうことも沢山ありました。子どもを傷つけないように、嫌われないように気を使ってばかりだったのに、だんだんと会う子どもたちを愛おしく感じるようになっていきました。大学1年生のときに会った子が、今では私の身長を超えそうなほどぐんぐん成長しています。そんな、子どもたちの成長をこれからも見たいなあと強く思います。

盛岡YMCAでできた仲間は、わたしにとってかけがえのない宝物です。おばあちゃんになってもそんな仲間と過ごした時間を忘れることはないと思います。卒業後は、岩手県の小学校の先生として働きます。新しい人や子どもたちとの出会いを楽しみながら、盛岡YMCAの仲間から教えてもらった情熱を持って関わっていける人になりたいです。



# また会える日まで！

3月20日に、盛岡YMCAを卒業するリーダー達の送別会を行いました。送別会では、思わず涙をこぼすリーダー達の姿も見られました。たくさん思い出を胸に卒業するリーダー達より、メッセージが届いています。



今年度で4年間のリーダー生活を卒業しました。長いようであつという間で、Yでの活動は私の大学生活の大半を占めていたと思います。

大自然の下、手を繋ぎ輪になって歌ったり、テントの中では肩をくっつけ川の字になり、一緒に毛布で寝たこともありました。少し寒いはずなのに、なんだかとてもあたたかかったね。

「強く、たくましく、頼もしく」時には冗談を言い笑い合いながら、厳しい練習に黙々と取り組みお互いを高め合っている皆の姿には、パワーと元気を貰っていました。ありがとうございます！

最後の学生生活を元氣いっぱい面白くて楽しい子どもたちと過ごすことができ、忙しくもとても幸せで充実した毎日でした。サッカースクール、ベスト、サンデー、野外活動と盛岡YMCAは沢山の活動があります。どの活動も楽しくてそれぞれの魅力がいっぱいです。ジュニアユースも含め、今まで出会った沢山の子どもたち、そして一緒に顔晴ってきたリーダー仲間、スタッフの方々が私は本当に大好きです。度々援助をしてくださったワイズメンズクラブの方々にも心から感謝しています。

これから社会に出ることになりますが、今までの経験を力に変えて、頑張ります。「君でいいんだよ」ありのままの自分が、かけがえのない存在なんだとともに感じる事ができ、これからも盛岡Yらしく子どもたちの笑顔と笑い声で包まれますように。4年間、本当にお世話になりました。ありがとう。また会おう！

盛岡大学4年 種市祥子（とうふリーダー）



盛岡YMCAには感謝の気持ちしかありません。学生生活の最後にいろいろな人達が集まる盛岡YMCAに巡り合えて、幸運に思っています。

今となってはとても恥ずかしいことですが、自分は勉強が生きていくうえで1番重要なことだと信じていました。なので、遊ぶことに罪悪感を感じていました。また、人と仲良くすることや楽しい時間を過ごすことにも意味を感じていませんでした。

しかし、盛岡YMCAの人達と関わることで少しずつ偏った価値観が変わりました。小学校の子どもたちと関わった時間は大切な思い出です。自分にとって久しぶりに本気になって遊ぶきっかけになりました。リーダーの人達の元気のある発言や行動には最後まで慣れませんでした。社会はきっとこういう人達を必要としているんだと思っています。職員の皆さんには扱いづらい自分を受け入れてくれたことに感謝しています。とても嬉しかったです。

振り返ると本当に感謝しかありません。楽しい時間をありがとうございました。お元気で。

盛岡大学4年 石川拓也（いなぞうリーダー）



みなさんこんにちは。Gパンです。色々書かせていただきます。まず、今まで12年間僕はYMCAと繋がってこれたことをとても幸せに思っています。ぼくの人生の半分以上の時を過ごさせてもらった盛岡YMCAで僕は沢山の出会いと沢山の笑顔をもらいました。YMCAで出会う人達は本当に面白く、楽しい人ばかりでした。不思議とYMCAの人たちと一緒にいると面白いことが起こります。しばらく会わなくても久しぶりに会うだけで笑いあい、笑顔の絶えない場所。そして、どれだけ辛いことがあっても温かく受け入れてくれるそんなYMCAが大好きでした。リーダーとして大学生になってから出会うことのできたスタッフ、リーダー、子どもたち。ぶつかりあったり、泣いたり、真剣に向き合ったりと普通に大学生活を送っていたら体験、経験できない時間だったと思います。

僕にとってかけがえのない人だらけで今までよりも離れてしまうのはとても寂しく思いますが、今までもそうだったように、今後もずっと繋がっていけると思っています。自分の中で死ぬまで忘れられない出会いや思い出の沢山詰まった盛岡YMCAが僕は大好きだし、これからもずっと大好きです。

今後のYMCAの活躍を期待していますが、今後のGパンの活躍にもご期待ください（笑）

盛岡大学4年 向平悟（Gパンリーダー）



私は盛岡大学の学生で、4年間、盛岡YMCAさんにお世話になりました。今まで私に携わってくださった沢山の皆さんに、感謝申し上げます。個性的な私を、笑いとやさしさで包んでくださったスタッフの皆さん、行けばいつも温かい言葉と豊かな自然の恵みを提供して下さった宮古ボランティアセンターの方々、人懐っこい笑顔とやんちゃな行動で明るい気持ちにさせてくれたリーダー達。皆さんに感謝の気持ちでいっぱい。本当にありがとうございました。

“個性を大切にする”という理念を私に強く植え付けてくれたのは、盛岡YMCAさんです。この理念に私は強く賛同致します。人の良さを見つけ、育てられる人になりたいです。

盛岡大学4年 杉村玲奈（モスラリーダー）



約半年間ですが、前湯センターでスタッフとしていました。シムこと志村星です。

私事ですが、3月いっぱい転職することとなりました。

学童保育をメインとしてさせていただき、初めは私自身子どもたちと交流する機会がなかったのでどのように接していけばいいか少し不安を抱えていましたが、盛岡YMCAの子どもたちはその不安をものともせず受け入れてくれました。それから子どもたちと本気で向かい合い、仕事がとても楽しく、毎日充実した日々を過ごすことができました。短い期間でしたが、なにかひとつでも子どもたちにいい影響を与えられたらと思います。

スタッフを初め、リーダーの皆さん、子どもたちには本当にお世話になりました。

ありがとうございました。

盛岡YMCAスタッフ 志村星（しむリーダー）



盛岡YMCAに出会ってあつという間に4年が経ちました。初めて学童で遊んだ日には、こんなにもパワフルで面白い子どもたち、スタッフ、リーダーがいるのだなあと感じたことを今でも覚えています。その後様々な活動に通い始めると、嬉しいことだけではなくたくさん悩みもできました。でもその悩みは私を人間的にも社会的にも大きく成長させてくれるきっかけとなりました。そしていつも仲間を支えられ、子どもたちの笑顔に助けられてきたなあ感じています。本当に感謝しています。

4月からは仙台市で教師として働き始めます。新しい子どもたちとの出会いが待っているとワクワクしてきます！！盛岡YMCAで経験してきたことを糧にして、ハードルらしく頑張っていきます☆今まで本当にありがとうございました。

盛岡大学4年 嶋崎恭子（ハードルリーダー）



送別会にて、卒業するリーダー達に、後輩リーダー達から歌が贈られました。←



← もりおかワイズメンズクラブの大関会長より、卒業する皆さんへ、感謝状が贈られました！



# ☆宮古の高校生、フィリピンへ！☆

宮古市の高校生、リンゴリーダーこと山根あかりさんが、盛岡の家村知佳スタッフと共にYMCA主催のフィリピンワークキャンプに参加しました。山根あかりさん本人からの報告を掲載いたします！



私にとって、今回のワークキャンプは改めて大切なことに気づかせてくれる、そんな体験がたくさんありました。

私は、ワークキャンプ自体の参加が初めてだったし、もちろん海外も初めてでした。もともと海外に行ってみたくて思っていたけれど、改めて行くとなると、自分がかつて考えていた以上に「現地の人と打ち解けられるか」「現地の生活に慣れるのか」と不安に感じました。

しかし、タンバリサに着き、その不安はすぐに消えていきました。タンバリサでは、現地の高中生とそれぞれの国の有名な歌について話したり、手遊びをしながら文化の交流をすることができました。さらに、ホームステイ先では、思い出すだけでもつらいはずのヨランダ（フィリピンに大きな被害をもたらした台風）についての話を私たちにしてくださいました。フィリピンのみなさんが私をこんなにも温かく迎え入れてくださったことをとても嬉しく感じるとともに、私もフィリピンのみなさんに何かしてあげたいと感じるようになりました。

日中のワークでは、ステージにセメントを塗る作業を行いました。何度やってもうまくいかず、復旧作業の手伝いのはずが逆に足手まといになってしまい、とても悔しかったです。タンバリサに来る前、自分の中でフィリピンを地元の宮古と少し重ね合わせて考えていました。被災してたくさん辛い思いをしてきた方に少しでも希望となるよう、小中学校のステージを修復すると決めていたのに、全然うまくできずに無力さを痛感しました。でも、何もできない私を見て現地の大工さんは笑っていてくれて、本当に素敵な島だなと改めて思いました。

タンバリサで過ごす最後の日には、元日本兵の父を持つ姉妹の話の聞いたり、現地の子もたちとアイスブレイキングやジェスチャーゲームをしたりしました。

元日本兵の父を持つ姉妹の話は、日本がフィリピンにも進駐して無差別に人を殺していったという話でした。その話を聞いた時は驚きと恐怖でいっぱいになりました。私がもしフィリピン人だったら、たとえ時間がたった今でも快く日本人を迎え入れることはできなかったと思います。しかし、フィリピンの方々は、「ニュージェネレーション」と言って涙を浮かべながら微笑みかけてくれました。きっとそう言えるまでた

くさんの葛藤があったと思います。私は日本にいる間、日本がフィリピンまで攻撃し、進駐していた事実を知りませんでした。ただ、唯一の原子爆弾の被爆国ということしか理解していませんでした。日本が東南アジア諸国に進駐していたという事実を今まで知らずにいたことが、今はただただ申し訳なくなりました。たくさん国を攻撃してしまった日本は、その事実を理解し受け止め、次の世代へも伝えていかなければいけないと感じました。

現地の子も達とは始めにアイスブレイキングをしてから、チームを分けてジェスチャーゲームをしました。最初は言葉が通じるかなという不安でいっぱいでした。しかし、言葉だけでなくジェスチャー交じりで話してみると、思っていたより意思疎通ができたため、ジェスチャーゲームを楽しんでもらおうと企画したはずが、いつの間にか私が一番楽しんでいました。しかし、参加してくれない子どももいたので、一緒に遊ばなかったなと思いました。

今回のワークキャンプは私にとって初めての経験で、本当に一日一日が濃くて、常に何かを学べるような体験がたくさんありました。私たちが何かを与えるより、私たちが多くのものを与えてもらった気がします。このワークキャンプ中、私がここに来た意味を考えていました。ワークではステージを完成させることができませんでした。しかし、ワークをただするためでなく、こうして言葉の違いを越え、国の違い、文化の違いを越えて関わりを持つために私はフィリピンを訪れた気がします。私にとってフィリピンは家族のように大切な人たちがいる故郷になりました。日本では目をそむけたくくなるような戦争の時の話も、周りに伝えていきたいです。

山根あかり（宮古商業高校1年 リンゴリーダー）



一緒に遊んでくれたタンバリサの子もたち



セメント塗りのワークの様子

## 盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 2・3月報告書

### ①インターン生より報告

インターン生のあさりリーダーこと安久津里彩さんより、2・3月の活動の報告が届いています。



2月宮古アドベンチャーでは、盛岡市小鹿公園にて、「ソリあそび」を行いました！宮古では見られない雪の量と、長くて少々急な斜面に子どもたちのわくわくが止まらない様子でした。斜面の途中にはジャンプ台もあり、そのスリルにハマる子もいましたよ。天気にも恵まれ、友達やリーダーと一緒に、一日中外で遊びました！子どもたちの生き生きとした様子、参加者全員笑顔溢れる活動を行うことができました。ありがとうございました。

3/5～8の4日間、関東学生YMCAの方々宮古に来てくれ、共に活動しました。この4日間では、盛岡YMCAリーダー主催の人間関係トレーニングや、関東学生YMCAが主導の小学生対象野外活動（3月は凧あげ）、被災地巡りや宮古サッカースクールなどの活動を行いました。関東学生YMCAのみなさんは、通常活動として老人ホームのボランティアなど、様々なボランティアを行っているそうです。たくさん個性豊かなメンバーが終結した4日間は大変濃いものとなりました。



3/5～8の4日間、関東学生YMCAの方々宮古に来てくれ、共に活動しました。この4日間では、盛岡YMCAリーダー主催の人間関係トレーニングや、関東学生YMCAが主導の小学生対象野外活動（3月は凧あげ）、被災地巡りや宮古サッカースクールなどの活動を行いました。関東学生YMCAのみなさんは、通常活動として老人ホームのボランティアなど、様々なボランティアを行っているそうです。たくさん個性豊かなメンバーが終結した4日間は大変濃いものとなりました。

関東学生YMCAのみなさんは、通常活動として老人ホームのボランティアなど、様々なボランティアを行っているそうです。たくさん個性豊かなメンバーが終結した4日間は大変濃いものとなりました。



↑ 人間関係トレーニングの様子。宮古の高校生のみならずとも一緒に取り組みました！



↑ 最終日、浄土ヶ浜にて。さっぱり船体験の後には、地元の皆さんのお話をお聴きました。

### ②宮古サッカーⅢ期終了！



今年度もみんなで駆け抜けた宮古サッカースクールも、Ⅲ期最終日を迎えました。

最終日のスクールには、いつも宮古ボランティアセンターの活動に協力して下さる「堀つちゃん」こと堀田さんも遊びにいらっしやいました。最終日も楽しく、笑顔が溢れるスクールとなりました。

これより、宮古サッカースクールはしばらく春休みとなります。4月に、また子どもたちの笑顔に出会えることを楽しみにしています！



← スクール！子どもたちにはたくさん！



← 時にはこんなお茶目なワンシー！

# 4月の予定

- ★4月1日(金) ぶらいむ・たいむ開校
- ★4月5日(火) 火曜水泳I期開講
- ★4月8日(金) 金曜水泳I期開講 篠木スクールI期開講 盛北スクールI期開講
- ★4月10日(土) 新入生歓迎会
- ★4月13日(水) 水曜水泳I期開講 盛南スクールI期開講
- ★4月14日(木) 高松スクールI期開講 向中野スクールI期開講
- ★4月16日(土) 森のようちえん 「街中探検」おさんぽキッズ☆ (於：内丸教会)
- ★4月16日(土) 本町スクールI期開講
- ★4月19日(火) 火曜水泳休講
- ★4月24日(日) アドベンチャークラブ 「山菜採りに出かけよう♪」 (於：小鹿牧場)
- ★3月19日(土) 本町スクールⅢ期終了
- ★4月29日(金)～30日(土) リーダーキャンプ



# 君でいいんだよ ～JUST THE WAY "YOU" ARE ㊟～

## 「贈る言葉」



3月は、卒業のシーズンだ。多くの子どもたち、若者たちが新たなステージへと羽ばたいていく。宮古市魚菜市場青年部 平井亮吉さんはYMCAの宮古での活動をいつも支えて下さっている。震災直後からなので、もう5年のお付き合いだ。外から宮古に入ったYMCAと地元との皆さんとの間をつなぐ架け橋として無理なたのみごとも快く引き受けて下さる。明るく爆発するような笑い声で、一緒にいるとなんだかこちらも元気になってくる。

先日、宮古小学校の卒業式に出席させていただいた。「宮古小学校父母と教師の会 会長」として壇上に立ち語った平井さんの贈る言葉を聞いて、改めて教えられた。「次の世代は、地域に生きる私たち大人が育てていく責任があるんだ!!」宮古だけではなく盛岡や全国の皆さんに知ってほしいと思い、紹介します。※もちろん、平井さんは、快く了承して下さい。(最初は照れてたけれど…)

盛岡YMCA総主事 濱塚有史

☆☆☆☆☆  
6年生の皆さん、ご卒業おめでとうござい  
ます。皆さんは5年前の同じ時期、ここ宮古小学校

で震災を経験しました。大変悲しく、辛い出来事でした。ここ宮古の地でも尊い命が多く失われました。ですが、保護者の私たちは下校前で良かったと、強く思います。転校した友達も含め、宮古小学校では生徒誰一人として失われた命はありません。先生方の努力もさることながら、みなさんは、生かされたのです。

これから中学生になります。つまらない事や、くだらない事でトラブルに巻き込まれそうになったら、思い出して欲しい。あの時に差し伸べられた幾多の優しさを。生かされた命である事を。自分を強く持ち、なりたい自分になるにはどうすべきかを考え、行動して下さい。努力が必ず報われるとは限りませんが、無駄になることは決してありません。

保護者の皆さま、おめでとうございませう。早いもので、十二年の月日があつと言う間だったと言う事を目の前に広がる光景に、改めて認識せざるを得ません。今後、大人への階段を歩む子ども達は、心と体が着しく成長します。我々も乗り越えたはずの思春期ですが、自分たちがどう乗り越えてきたのか、今となっては定かではありません。が、私たちが辿った、真直ぐな道や、曲がった道なら、助言できる筈です。子育てに正解は無いものです。全力でぶつかり、共に成長して参りましょう。

宮古小学校父母と教師の会  
会長 平井亮吉

## インドでゴリナも考えた。①

ゴリナリーダーこと武田悠さん(岩手大学4年)は、全国の学生YMCA主催のインドスタディキャンプに参加しました。これから数回に分けて、本人からのレポートを掲載いたします。

「チャパティ！」インドで出会った子どもたちに呼ばれていた名前です。そもそもチャパティとは、インドの朝ごはんの定番、平たいパンのこと。18歳の男の子ジョースが、私の平たい顔を見て、そのニックネームを付けてくれました。今回は、そうしたインドで出会った子どもたちとの共同生活を通して感じたことを書いていこうと思います。

子どもたちと出会ったのは、セントポニファスアンバハムという施設です。広く、自然が豊かでとても素敵な場所です。そこに40人ほどの子どもたちが暮らしていました。私たちが、施設に入るとニコニコと笑顔で出迎えてくれ、ダンスを見せてくれました。私はそんな子どもたちとバレーをしたり、縄跳びをしたり、また勉強をしたり、掃除をしたりと楽しい時間を過ごしていました。しかしある日、私を「チャパティ」と呼び始めたジョースとテスト勉強をしていた時の事です。ふとジョースが「僕の父と母は耳が聞こえないんだ。妹は聞こえるんだけどね。」と言いました。さらに聞くと、学校費用や生活費が払えないためにこの施設に来たとのことでした。このセントポニファスアンバハムは、両親がいない子

どもや、お金がなく親が育てることができなくなってしまった子どもたちが暮らしている施設です。私はジョースとそんな話をするまで、あまりそのことを意識していませんでした。むしろ、それを感じさせないくらいのパワーや笑顔をもつ子どもたちでした。

「たくましい」この言葉が本当にぴったりと合う子どもたちだと私は思います。掃除洗濯、ごはんの準備はもちろん皆で行います。また女の子では年下の子の髪の毛を毎朝結ってあげます。ひとつの家族のようでした。

そんな子どもたちと出会って、親がないということ、お金がなく学校にいけないということが、どんなことなのか、またジョースのように辛いことがあつたと感じさせられることが何度もありました。しかし同時に、感じることはあつて、実際に経験していない私には、気持ちの理解ができなくて強く思いました。子どもたちから、家の事情を耳にするたび、その子の辛さ、何を思っただけのことを話してくれているのか、全く想像がつかないことを思い知らされました。

違いを超えることの難しさを痛感したように思います。



真ん中の男の子がジョース。



インドの女の子とツーショット！

## 表紙の写真から



3月をもって卒業するリーダーたち。これから、未来に向かって羽ばたいていきます。彼らの飛躍に期待しています!!

- 感謝 (2015年度3月現在 五十音順・敬称略)
- 維持会費  
阿部靖、有我啓作、飯島隆輔、家村知佳、池田二郎、石渡隆司、戸真実、伊藤克見、伊藤良郎、伊藤真太郎、伊藤愛美、伊藤みどり、井上浩太郎、井上修三、井上優子、今松桂子、鶴丹谷三子、魚住英昭、江崎歩人、越前谷洋子、遠藤昌樹、大関靖二、岡田虎浩、押切裕、小畑孝子、重石桂司、角浦晋次(株)、興和電設、川守田浩、神田橋恵一、川坂保宏、菊地弘生、北原良子、高彩希、小原茂元、熊谷圭祐、熊谷太、桑原良子、高野健児、斎藤小林みなみ、小山憲彦、今野聖子、今野健男、青藤恒夫、佐藤翔、清水弘、杉田弘美、高瀬悠彦、滝川佐波子、武内祐輔、田村治之、千葉洋子、中原澄、長岡和義、長岡正彦、中村圭一、名古屋恒彦、朴正浩、花田隆、濱塚直樹、濱塚真実、濱塚有史、早坂春希、林辰也、原寛、人見弘弘、廣川厚子、藤野陽平、古澤伸、増田隆、松尾聡子、松本和也、水谷史朗、光永尚生、水野鶴夫、宮崎幸雄、棟近万里奈、村上健太郎、村上才子、森山日菜乃、森山幹大、盛岡チャペル、山口貴博、山崎詩織、吉井啓亮、林間さき野教会
- 寄附金  
飯島隆輔、池田二郎、石渡隆司、伊藤克見、伊藤良一郎、今松桂子、鶴丹谷三子、遠藤昌樹、角谷晋次、神田橋恵一、熊谷圭祐、小山憲彦、佐藤翔、清水弘一、杉田弘美、高瀬悠彦、中原澄、花田隆、早坂春希、原寛、人見弘弘、増田隆、山崎詩織、友愛幼稚園
- 東日本大震災被災地支援基金・献品  
2015チャリティコンサート実行委員会、青木寛、青木恭子、飯島隆輔、岩谷みなみ、ワイズメンズクラブ、宇都宮ワイズメンズクラブ、宇都宮東ワイズメンズクラブ、大阪YMCAインターナショナルスクール、ジョン・マーフィー、神那那那ワイズメンズクラブ、鹿児島YMCA、鹿児島ワイズメンズクラブ、鎌倉ワイズメンズクラブ、京都ワイズメンズクラブ、京都エフエムクラブ、京都キヤベタルクラブ、京都東横ワイズメンズクラブ、京都トップスワイズメンズクラブ、熊本むすしワイズメンズクラブ、清水臨一、頌栄短期大学、第10回日本医学放射線学会秋季臨牀大会、東海ワイズメンズクラブ、名古屋ブラザース、名古屋ワイズメンズクラブ、名古屋ワイズメンズクラブ、名古屋ワイズメンズクラブ、名古屋ワイズメンズクラブ、廣瀬一雄、フジクリン岩手株式会社、南山ワイズメンズクラブ、山本常雄、横浜ワイズメンズクラブ、四日市ワイズメンズクラブ、ワイズメンズクラブ、国際協会東日本区、ワイズメンズクラブ西日本区、ワイズメンズクラブ東日本区、和歌山紀の川クラブ
- 国際協力基金  
秋永光里、浅沼慧、浅沼美希、浅沼久志、浅沼友慈、家村知佳、伊藤克見、石崎真珠、伊藤克見、伊藤真太郎、伊藤愛美、岩城恵、魚住英昭、鶴丹谷三子、遠藤昌樹、遠藤立規、大崎若太、大関靖二、小笠原真紀子、尾形裕一郎、小川嘉文、小野寺大介、小畑孝子、重石桂司、川守田浩、神田橋恵一、君塚彩、鬼柳忠彦、工藤悦子、熊谷晋次、熊谷圭祐、熊谷真奈美、熊谷力、興和電設(株)、佐藤想純、末廣光輝、菅原省司、杉田弘美、高橋亜也、高橋千鶴子、滝川佐波子、千葉洋子、中村恵美子、中村沙、名古屋恒彦、日本基督教団内丸教会、濱塚秋、濱塚有、早坂春希、東森、藤、フジクリン岩手、株、増田隆、松本武彦、女鹿なな花、盛岡チャペル、守下昌隆、山崎祥子、(有)熊安旅館